

5-11		主題	利用者と <sup>とも</sup> 偕に生きる「とっかえる」の取り組み	
生活の質の向上		副題	～居心地のいい環境を目指して～	
<sup>とも</sup> 偕に生きる				
研究期間	10ヵ月	事業所	養護老人ホーム 偕生園	
発表者：松尾 としこ（まつお としこ）			アドバイザー：外部学識者	
共同研究者：鈴木良・天宮陽子・五十嵐龍男				
電 話	042-541-1236	メール	kaiseien-soudanin@doho-gojoyokai.com	
FAX	042-546-8284	URL	http://doho-gojoyokai.com/2kaiseien.html	
今回発表の 事業所や サービスの	社会福祉法人同胞互助会を母体とする養護老人ホーム偕生園は、昭和34年3月に定員50名の施設として開設した。平成12年に全面建替えをし、特別養護老人ホームと併設し、現在、定員140名である。			

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>H20年1月</p> <p>分煙化のため、各フロアにあった3ヶ所の喫煙所を1ヶ所にまとめ、残りの2ヶ所を談話室に変更した。ところが喫煙所だった頃は賑やかだった場所も、談話室にしたところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・談話室には、いつも誰もいない。</li> <li>・職員からみても、談話室が殺風景な印象であった。</li> </ul> <p>また、施設の建替え前の大部屋とは違い、居室環境が快適になった影響で、利用者が居室に閉じこもりがちになり、他者との交流や関わりが希薄となってしまった。</p> <p>H20年4月</p> <p>「くらし安全委員会」が発足する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・談話室の有効な活用方法の検討。</li> <li>・閉じこもりがちな利用者の活性化を促がすための工夫。</li> </ul> <p>H21年9月</p> <p>「利用者参加型の環境改善」に発想転換する必要がある為、課題整理を行なう。</p>	<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 有効に活用されていない空間を改善し、利用者が立ち寄り易い場所にする。</li> <li>② 利用者が環境作りに参加する委員会を通じて利用者の意見を聴き、生活環境の快適さ、安心さ、居心地良さを追求して「環境の良さ＝生活しやすさ」に繋げる。 （「くらし安全委員会」から、新たに、「とっかえる委員会」が発足する。）</li> <li>③ 委員会の中での利用者の意見が現実の形となり、変っていく過程において、メンバー同士の交流を深め、一体感が出てきた。</li> <li>④ 利用者が「言っても変わらない」と諦めないで、ひとり一人の意見が大事にされる施設になるよう取り組んだ。</li> </ol>
---	--

### 《具体的な取り組みの内容》

①20年4月 「くらし安全委員会」が発足。

- ・利用者にアンケートや聞き取りを行なう。
- ・談話室の改善に向けて、談話室の模型を作り展示する。
- ・利用者から談話室の活用方法について意見を募るが反応なし。

談話室の壁紙の張り替え、調度品の設置などを職員が提案した。しかし、具体化しないまま、改善に至らず1年が過ぎた。

②21年6月 外部の学識者からアドバイスをもらう。

- ・認知症のために、環境作りを先駆的に取り組んでいる施設を見学した。

③21年9月 利用者参加型の委員会とする。

- ・利用者を巻き込んだ改善に発想の転換をする。
- ・参加する利用者を募集し、委員会の名前やキャラクターを考える。
- ・カエルのキャラクターを作成する。
- ・「とっかえる委員会」が誕生する。  
委員会は月に1～2回開催する。

④会議で話し合い

- ・施設の中で今、何が一番改善したいか等、意見を出し合う。
- ・委員それぞれが気になることを写真に撮り意見を出す。「もっと使いやすく」「危なくないか」「生活しやすいか」を視点に、出来るところから行っていく。

### 《取り組みの結果と評価》

#### ＜取り組みの具体例＞

①居室

2人部屋の入口にカーテンはあるが、「個人のプライバシーを守りたい」と、利用者から意見があったので、2人部屋全てに仕切りのカーテンを取り付ける。

②玄関

140名の利用者の下駄箱から、夏場だけでなく、ほぼ1年中異臭があった。消臭剤の散布、下駄箱のドアの開放を実施するが効果はあまりなかった。

靴を洗う事で臭いが消えるのではとの意見から、屋上に洗濯機と洗い台を設置する。靴洗用の洗剤、ブラシ、靴専用干しなども用意し、靴洗い週間（習慣）を設け実施した。

実際に1週間に平均4～6名の利用者が靴を洗うようになった。

③屋上

次に広い屋上の使用方法についての意見が出る。そのため、屋上に関するアンケートを実施する。

- ・屋上で盆踊りの練習をかねて縁日を企画。

④その他

- ・茶話会で進捗状況を利用者が発表。

#### 《まとめ》

これからも利用者の意見、気づきを大切にしながら、居心地の良い生活の場を作っていく。「<sup>とも</sup>偕に生きる」を利用者、職員と実践して行きたい。

#### 《提案と発信》

現在、養護老人ホームの在り方が問われており、これからいろいろなニーズをもった利用者が入所されてくる。そういう中で、入所された利用者が生き生きと、自分らしく生活できる場所として、利用者・職員と<sup>とも</sup>偕にチャレンジして行きたい。

【メモ欄】追加資料 有 ☐ 無 ☒

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。